

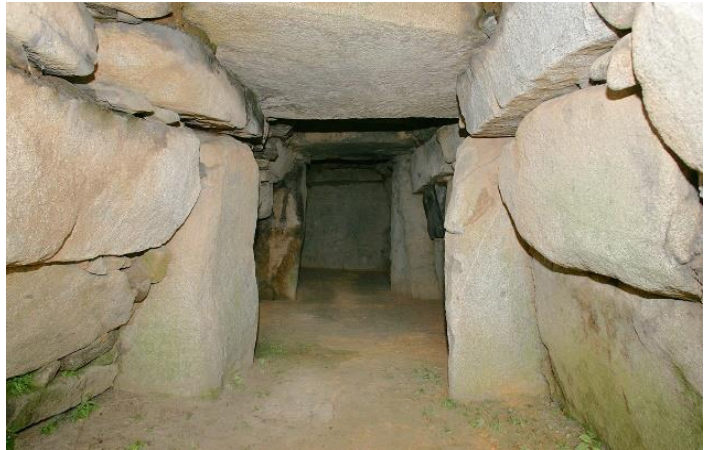
5 伊方古墳 県指定史跡〔昭和52(1977)年指定〕

伊方古墳は、6世紀後半に造られたお墓です。円墳と呼ばれるまんじゅうの形をしたもので、大きさは、発掘調査の結果から復原すると、高さ約5m、直径約32m、その周囲に約2mの溝が巡ります。墳丘の内部には、遺体を納めるための横穴式石室が造られています。かこう岩の巨石が多く利用され、入口は南側に開き、全長13.82m、石室は複室で、遺体を納めた奥の部屋(玄室)の長さ3.15m・奥壁幅2.28m・高さ2.46m、前室の長さ2.72m・幅2.40m・高さ2.36m、前室につづく通路(羨道)は長さ1.42m・幅1.50m・高さ1.84m。その前に入口を塞いだ閉塞石が一部残っています。出土品は、発見が古いため不明ですが、整備前の調査で須恵器等の土器類、馬具類、青銅製の鈴、鉄釘などが発見されています。

※石室見学の際は、「福智町埋蔵文化財センター」(TEL:0947-28-9111)まで



▲ 外観



▲ 内部